

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	認知症高齢者グループホームひだまり
所在地 (県・市町村名)	宮城県大崎市田尻大貫字境36-1
記入者名 (管理者)	伊東 聡美
記入日	平成 19年 8月 10日

宮城県

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「もうひとつの我が家での安らぎと喜びのある生活」をケアの方向性として、職員一同が原点としながら日常的に話し合い共有化を図っている。	○	年度初めには勿論、ご利用者お一人お一人の生活や地域との関わり強化を考えたときに、原点に立ち戻り考える手段として活用している。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	我がホームで働く職員としての「心構え」や「理想とする職員像」などを話し合い、その中には理念に基づく行動も含まれており、それぞれが意識しながら日々のケアに活かされている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	公設民営という事もあり地域住民に対して、開所時に理念や役割の説明会を行っている。法人全体の広報紙を年2回発行し、旧田尻町全戸に配布しており、その中で伝えるようにしている。	○	今年度は、グループホーム独自の「ひだまり通信」が発行されていないが、それを利用しながら伝えていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	入居者やボランティアさん、色々な方を通じてご近所の方に立ち寄って頂いている。小学生や学童クラブとの交流もある。ホーム主催の行事には積極的に声をかけ参加して頂いている。	○	ご近所の皆様からの支援・協力は日常的にあり、我がホームは地域の皆様に支えられていることを常日頃から感じている。更にこれからも継続させていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の区長さん、民生委員さんとは必要時連絡が取れる。また、近隣の幼稚園とは交流会を設け「散歩の会」を実施し地元の文化祭にも出展させて頂いている。	○	「守られている」だけではなく、これからも利用者の状況に応じて出来る事はどのような事なのかを考え交流を続けていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	実習や見学は、積極的に受け入れているが、入居者のプライバシー等に配慮しながら行っている。	○	地区の方から、一緒に避難訓練した時に介助する事に不安があるという事が聞かれたので勉強会を設けたいと考えている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎年実施される外部評価のねらいは職員間で十分に話し合っている。形式的なものに終わらせることなく全職員が前向きに考えより良い施設作りを目指すきっかけとなっている。	○	今年度から法人で取り組んでいる人事考課制度の自己評価とも関連させ、常に振り返る事気付く事の大切さを意識し役立てて行くようにする。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議については、最初は形式的なものだったが御家族の皆様同志が話し合える場だったり、行政側や地域の区長さんをはじめ双方が話し合える場になっている。	○	一番難しいと考えていた防火に関する事柄がこの会議を開催する事によって、区長さんをはじめとする地域の方々にきちんと考えられていた事が分かった。開催日時に配慮しながら継続していく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	旧田尻町の公設民営ということもあり、日頃から行き来もある。月に2回行政との勉強会も実施されている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	前述のように合同勉強会で専門分野を学ぶ機会もある。入居者や御家族へは必要時折に触れ個別にお話している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や職員会議で高齢者虐待防止法に関する話し合いがもたれている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	この時点で考えられる不安、疑問解消に努め、契約時に書類をもとに分かりやすく説明し同意を得るようにしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	6ヶ月に一度安心相談員の来訪がある。入居者によって職員に話して下さる人、ご家族に話して下さる人、それぞれだが何れも入居者の表面的言動に捕らわれることなく意見・苦情を「宝」と考え日々の生活に活かしている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	担当職員から、月1回の手紙による報告、来訪時の近況報告を行っている。また、管理者や担当職員を中心に連絡を積極的に行っている。行事にはパワーポイントやビデオの上映にて様子をお伝えしている。ご家族の来訪頻度も多い状況である。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個別に「こうゆう風にしてもらえたらありがたい」というお話も頂いており、職員で話し合い反映させている。	○ ご家族の来訪時には積極的にお声をかけ話しやすい雰囲気を作るよう努力している。(入居者の話以外でもご家族の話などもしコミュニケーションをとる努力をしている)
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	環境の変化や交替勤務におけるメンタル部分での変化や体調管理との関連性を理解しながら、職員の話を聴くようにしている。しかし、個別に話を聴く時間が持てなく話したりない部分もあると思われる。	○ 今年度後半より我が法人で人事考課制度を試験運用する予定であり、その中で個別に職員の意見を聴き反映出来ればと考えている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	日々のシフトは無理なく組まれている。突発的な勤務交替については、デイサービスの兼務職員の協力がある。夜間は、課長と管理者が待機体制を取っている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職は少ないが、人事異動による職員交替がある。入居者やご家族へはその都度お話ししご協力頂いている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれにあった研修(経験年数など)の受講をしている。会議で研修報告を行うほか報告書の提出も行っている。全ての職員が閲覧している。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮城県グループホーム連絡協議会に加入し、交換研修等に参加し質の向上に励んでいる。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理職に従事する者は、ストレスがもたらす心身の影響を十分に理解(研修受講済み)している。その中で、個別に応じた要因に気を配っている。	○ 我がホームは人材に恵まれており、中間層の職員が新人職員の話を聴くという大切な役割を果たしている。このことは、職員それぞれが自然に身に付いており、我がホームの良い所でもある。引き続き継続していきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は積極的に現場に来ている。法人内部会議(課長・主任・副主任)にて職員の状況を報告、連絡、相談している。	○ 運営者は、行事にも参加して下さり、職員の日頃の職務に、労いの言葉をかけて下さる。今後も双方向で話しやすい雰囲気作りを心掛けていきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談では、必ず本人にあって心身の状態や本人の思いに向き合い、本人に受け入れられるような関係づくりに努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居申請に来た時点で、ご家族は何に困っているのかよく話しを聴く事を前提に、これまでの在宅での介護苦勞に寄り添い、思いを共有している。今後、我がホームとしてどのような対応が出来るか、事前に話し合いをしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人やご家族の思い、状況を確認し、場合によっては地域包括支援センターや他の事業所のサービスに繋げるなどの対応を行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居申請提出された後は、本人若しくはご家族に見学に来て頂いている。現入居者を見ながら、ここでの生活を共に考えている。入居時には本人の状況に応じて混乱を最小の状態に出来るよう綿密な打ち合わせをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者を人生の大先輩として捉え、入居者の得意分野を教えてもらう立場で接している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者やご家族の喜びを職員も共に共有させて頂き、一緒に入居者を支えていく支援をしている。	○	根本的に縁あって我がホームを利用して下さった入居者、ご家族に対し「ひだまり」で出会えた事に感謝し、これからも一緒に共に支えていく事を伝えていく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者とご家族との関係の中には、時間が解決する事もあると考えている。入居者やご家族の状況を見極めながら一緒に過ごす事を勧めたりセッティングし、より良い関係の継続に努めている。	○	グループホームで生活する事は、家や家族からの隔絶を意味するものではなく「もうひとつの我が家」を持つ事で、本人とご家族が共に安心して暮らし、本来の家族関係を保てる事を望んでいます。という事を入居時にお伝えしている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院に行き続けている入居者や遠方に住む兄弟へ会いに出掛ける方もいる。一人一人の生活習慣を大切に尊重している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士の関係性について職員は情報連携し共有している。入居者が活躍できる場面をセッティングし関係が円滑になるよう努めている。	○	昨年の誕生会では入居者お一人お一人の人生紙芝居を作った。自分の事を上手く表現できない入居者のことを他の入居者が知り分かり合える機会にもなったと感じている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	同法人のサービスを継続利用して頂いている事もあり、その関係は継続されている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で本人の思いを聴くようにしている。個別に聴くやり方、他の入居者の中で話す暮らしの要望など色々な場面で聴く事を心掛けている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に自宅に訪問したり、本人やご家族に、関係者からの聞き取るようにしている。入居後も折に触れ、本人やご家族にどんな生活をしていたのかを聴いている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	1日の暮らし方や生活リズムを把握、理解している。目の前の周辺症状に振り回されることなく、その人全体の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	常に本人の視点に立ち、困っている事は何か話し合い、職員かの気づきを大切にプランを作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に1回あるケアカンファレンスで関わりの確認や現状の確認を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	二種類のシートを使用し改善しながら入居者の個々の特徴や変化を具体的に記録している。ケアカンファを実施する際の根拠とし、改善点や方向性を介護計画に撃げている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて通院や送迎など必要なサービスは柔軟に対応し個々の満足を高めるよう努力している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	社協を通じてボランティアの導入や地区の区長さんを初め民生委員の協力のもと、災害時の取り決めもある。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	合同の勉強会にて検討会議もあり、参加者から広くアドバイスを頂き、選択肢の拡大に繋がっている。また、必要に応じ訪問理容を利用してもらっている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	すぐに相談に乗って頂ける関係の中で、地域包括支援センターとは、各種情報交換も出来ている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、入居前からのかかりつけ医での医療を受けられるよう、ご家族と協力し通院介助を行ったり、訪問診療に来てもらうケースもあり、複数の医療機関と関係を密に結んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>現在は、医療連携体制がとられていない事や往診して下さるドクターがいない事で条件が整っていないが、今後考えていきたい。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	お一人おひとりの人格の尊厳について常に意識し、プライバシーに配慮した対応を行っている。個人情報保護法の理解、秘密保持の徹底に努めている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者に合わせて声を掛け、意思表示が困難な方には、表情を読みとったり、複数の選択肢を提案し入居者が自分で決める場面を作っている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは持っているが、時間を区切った過ごし方はしていない。その日、その時の本人の気持ちを尊重し出来るだけ個別性のある生活を送ってもらえるようにしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	個々のこれまでの生活習慣を大切に、入居者自身からの「おしゃれ」に職員が気づき、さり気なくお声をかけるようにしている。利用する美容院とも連携がとれている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の食べたい物、節の物を献立に入れている。調理や片付けは入居者の状態に応じて共に行っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居者の嗜好を理解し対応している。たばこについては、消防署からのアドバイスから、決められた場所で喫煙してもらっている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	お一人お一人の排泄パターンを把握しながら、生活スタイルや身体機能に応じて、自立して頂けるよう支援している。(必要な方には失禁アセスメントを行っている)		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の要望(時間の希望)を伺いながら対応している。夕食後の入浴も対応可能な状態である。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。寝付けない時には、添い寝したり、温かい飲みものを飲みながらお話する等配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で自分の力を発揮してもらえよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額のお金を手元に持っている事で安心されている方もいる。「〇〇へ行って買い物したい」という要望を大事にしながら支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候を見ながら外出する機会を設け入居者の気分転換を図り、楽しみが持てるような雰囲気作りをしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者の状態やご家族の協力を頂きながら外出や旅行イベント参加などの機会を作っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望に応じて取り組んでいる。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	入居者にとって馴染みの方々の来訪は職員にとっても嬉しい事で、気兼ねなく訪れて頂けるよう心掛けている。遠方にお住まいの娘さんが泊まって下さる事もある。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が「事故防止」と「身体拘束」の関連性を理解しながら実践している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関からの出入りは制限なく行っている。職員の死角となる窓から出て行かれる方もいらっしゃるが、いずれも職員は止めることなくそっと見守りをして対応している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者の言動に注意しながら24時間安全の配慮をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の状態に応じて管理保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	インシデント・アクシデント報告書を作成し原因を分析し改善に繋げている。効果の検証も実施されている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的な訓練やマニュアルがあり、その都度誰でも対応できるようになっている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回日中・夜間想定避難訓練を実施している。地元の区長さんが協力的で地区の防災自治組織に援護施設としてマニュアル化されており、救護担当者も決まっている。地区との災害訓練も共に行っている。	○	現在は、医療連携体制がとられていない事や往診して下さるドクターがいない事で条件が整っていないが、今後考えていきたい。あるマニュアルをより使いやすくしていく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	毎月の手紙や来訪時、電話などでこまめに連絡を取っている。ご家族からは、その都度意見を頂いており、ホームの方針に理解して頂いている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居者の状態を把握し早期対応にあたっている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	必要に応じてドクターからの「薬の勉強会」を開催して頂いている。服薬セットに関して、全ての職員が携わっている為、薬の内容把握は出来ている。入居者がお薬を飲み終えるまで見守りをするなど細心の注意を払っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	個別により効果的な、食べ物や飲み物で工夫している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔の清潔は食後の歯磨きによって行えている。自力で行えない入居者については職員が手伝う事で口腔の清潔を保ちながら異常の早期発見に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分飲用状況を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有している。法人の管理栄養士にアドバイスをもらいながらカロリーや栄養バランスに配慮している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成し勉強会も実施し予防に努めている。入居者及びご家族に同意を頂き、職員共にインフルエンザ予防接種を受けている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生マニュアルもあり実施されている。冷蔵庫内の整理日を決め点検、清掃し食材の残りは期限や状態を確認し対処している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物周りの整備はボランティアさんが行って下さっている。また、玄関周りの装飾品等は地元の方が立ち寄り飾って下さる。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	普段の暮らしの中で、五感や季節感を意図的に採り入れる工夫をしている。また、近隣の幼稚園の園児が季節毎の手作りの飾りを持ってきて下さる。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各廊下の端にあるスペースにソファを準備し入居者が部屋以外にお一人になれる空間を作り活用している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	入居者の好みや馴染みの物などを生活スタイルに合わせて 用意している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	なるべく自然換気を心掛けているが、冷暖房は温度・湿度計 と入居者の様子を見ながらこまめに対応している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	入居者の状態に応じて手すりなど後付けし安全確保に配慮 している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	入居者によって混乱する物が違う事を理解し対応している。 職員間で話し合い、不安材料を取り除き、残された(眠ってい る)力を取り戻せるよう試みている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	入居者の馴染みの暮らし方を活かし畑で自家製野菜を作っ たり、玄関先のスペースを利用し活用している。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・地域の方々との交流も多く、入居者も安心して近所つき合いができています。(地域の方々に見守られていると感じる事が多い)
- ・畑があり、入居者の皆さん収穫を楽しみにされている。
- ・お一人おひとりのニーズにあった対応を職員同士で話し合い、より良い対応を日々考え努力している。
- ・職員は、運営理念に沿って、お一人おひとりに合った対応をし、個人の生活がより良いものになってほしいと思い接している。
- ・ボランティアの協力・存在が大きい！近隣の幼稚園や小学校との交流もあり子供達が遊びに来て下さる。職員同士の人間関係が良い。

何よりも、入居者の生活をひだまりのパターンに合わせようとするのではなく、お一人おひとりが「気ままに」「自分のペースとやり方で」ストレスも多いであろう共同生活を楽しんで頂けるよう心掛けています。